

淡路オリジナルストックの出荷期拡大

淡路地域では生産者育種によるオリジナルストックが市場出荷されている。しかし、現状の栽培では出荷時期が3月以降になり、ほ場占有期間が長いため、産地からは出荷期の前進が求められている。そこで、淡路オリジナルストックの出荷期前進を目的として、植物成長調整剤（開花促進効果）の効果を検証した結果、50%開花日が最大で約1カ月前進することを明らかにした。

内容

淡路オリジナルストックのうち、花が白色の「淡路ホワイト」（写真）を、2012年8月8日から2週間毎に12月12日まで10回、その後は4週間毎に1月9日から3月6日まで3回、計13回は播種し、8月29日から順次、淡路農業技術センター内の硬質プラスチック温室に株間、条間とも12cmで7条植えた。本葉10～14枚時とその7～10日後の適期に2回、植物成長調整剤のプロヘキサジオンカルシウム塩水和剤1000倍液を、1a当たり100茎葉散布した（ビビフル処理）。対照は無散布とした。その他の管理は慣行に準じた。

その結果、図のとおり8月8日に播種したものでは50%開花日（全株のうち半数が開花した日）が最大で約1カ月前進し、2月中旬に開花した。播種日が遅くなるにつれて開花前進効果は小さく

なり、10月3日播種以降は、その効果は、ほとんど見られなかった。ビビフル処理により切り花長、切り花重及び葉数が少なくなる傾向（データ略）がみられた。しかし、12月12日の播種までは出荷規格の秀品である70cm以上の切り花長が確保できた。

以上のことから、ビビフル処理により出荷期間が最大で約1カ月前進できることになり、市場出荷量増大が見込まれ、産地のブランド力強化に貢献できる。

今後の方針

春季に収穫期を迎える作型のストックでは切り花長が不足する傾向があり、1月上旬播種以降の切り花長は70cmに達しなかった。今後はこの点を改善できるように、温度や光などによる草丈伸長の可能性について検討する。

石上 佳次（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

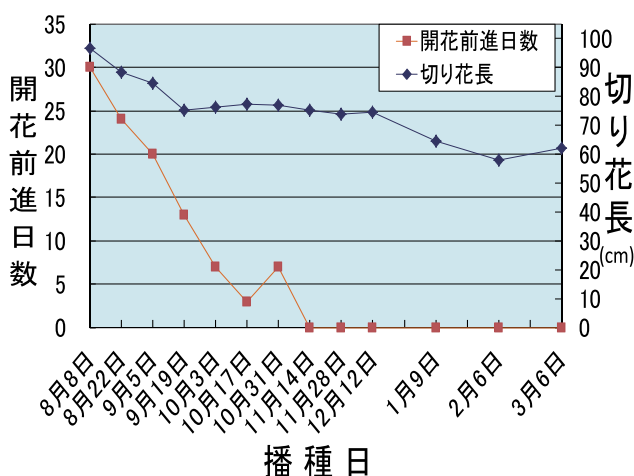


図 ビビフル処理による切り花長と開花への影響

注) 開花前進日数＝無処理区50%開花日－処理区50%開花日



写真 淡路ホワイト